平成２９年１２月１日

苫小牧市長　　岩倉博文様

苫小牧市教育長　　和野幸夫様

要望者　　苫小牧市勇払 24 番地の 2
勇払自治会会長　　本田健吾 [redacted]

苫小牧市勇払 143 番地
パルプ町内会会長　　増田　隆 [redacted]

苫小牧市勇払 10 番地の 24
勇払商工振興会会長　　忠鉢豊和 [redacted]

苫小牧市日新町 5 丁目 1 番 14 号
苫小牧郷土文化研究会会長　山本融定 [redacted]

松浦武四郎の記念碑建立に関する要望

（趣旨内容）

来年平成 30（2018）年は、本道が「北海道」と命名されてから 150 年の節目に当たり、北海道としても記念事業を計画しているとのことです。

また「北海道」の名づけ親であり、伊勢国（三重県）の人である北方探検家・松浦武四郎（文政元（1818）年～明治 21（1888）年）の生誕

200年、没後130年の記念すべき年にも当たります。

松浦武四郎は弘化2（1845）年初渡道以来、安政5（1858）年まで6回渡道し、本道だけでなく当時は日本の領土だった南樺太や国後島、択捉島の北方領土にも上陸し、地名など詳細に調査しています。

苫小牧には勇払会所（現苫小牧勇払）に5回、樽前（現苫小牧市樽前）に1回の合計6回宿泊し、勇払会所や樽前の鰯漁の盛業など詳細な記録を残しました。

松浦武四郎は本道の内陸部も調査し、詳細な北海道初の地図と云われる「蝦夷大概図」を著しました。また松浦武四郎は道内を11国86郡に区画し、明治新政府によって「北海道」と共に、この国郡制が採用され、今日に至っています。　これにより当地方は「胆振国勇払郡」となりました。また先住民族であるアイヌ民族に対する和人の非道を、出版を通して世に知らしめました。

さらに勇払会所で藍の作付けが行われており、これを見て松浦武四郎は和歌を一首詠じています。

「世の中の　ためとて藍を　植初し　心の色の　浅からぬかな」

このように北海道にとって大きな足跡を残し、また苫小牧の地史にも影響を与えた松浦武四郎の功績を、苫小牧市としても節目の年に顕彰し、今後、学校教育にも役立て、青少年にも苫小牧市民としての自覚と誇り

を持ってもらいたいと思います。

つきましては、苫小牧市として松浦武四郎の顕彰碑（歌碑）を「勇払会所跡」に建碑されるようお願いいたします。

松浦武四郎、6回渡道、勇払5回宿泊、樽前1回宿泊 ７、　弘化2（1845）年　勇払宿泊①、勇払宿泊② ８、　弘化3（1846）年　勇払宿泊③ ９、　嘉永2（1849）年　国後島、択捉島 １０、　安政3（1856）年　勇払宿泊④ １１、　安政4（1857）年　樽前宿泊① １２、　安政5（1858）年　勇払宿泊⑤